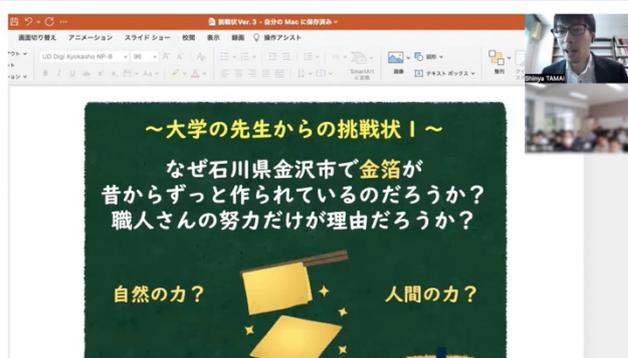


札幌市立白楊小学校と連携し、広域交流型オンライン社会科学習を実践しました

【サムネイル画像（児童の顔マスク処理済）】

釧路校と繋がる遠隔交流学习（上）
東広島の小学校や広島大学と繋がる遠隔交流学习（下）



【本文】

北海道教育大学釧路校では、へき地小規模教育研究センターが中心となり、遠隔教育を実践できる現職教員や教員志望学生の力量形成を支援しています。その一環で、釧路校・社会科教育学研究室の講師・玉井慎也先生は、令和5年度・北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターの研究助成を受け、現職教員や教員志望学生が遠隔教育に関わることでどのような学びを得たのか調査しています（2023年10月10日の記事も併せてご覧ください）。

2023年12月中旬には、札幌市立白楊小学校・第5学年担任の小野優斗教諭と連携し、単元「伝統産業」と単元「情報産業」に関連した遠隔交流学习を展開しました。本プロジェクトは、主に2つの遠隔交流学习から構成されます。

1つは、「大学の先生からの挑戦状：大ニュース！金沢市の金箔が危ない！？」と題し、釧路校と白楊小学校がオンラインで繋がる学習です。大学教員（玉井先生）からの挑戦状1「なぜ石川県金沢市で金箔が昔からずっと作られているのだろうか？職人さんの努力だけが理由だろうか？」、挑戦状2「石川県金沢市の『伝統』として金箔をずっと作り続ける職人さんたちは、いま何に悩んでいるのだろうか？」に対し、白楊小学校の5年生の児童はインターネットや地図帳を活用しながら答えました。

もう一つは、「未来とつながる情報：新聞・インターネットの情報は無料だろうか!？」と題し、白楊小学校と広島県東広島市の小学校2校（4学級）や広島大学がオンラインで繋がる学習です。玉井先生が継続的に関わっている広島大学の教育ヴィジョン研究センターの「広域交流型オンライン社会科学学習」に白楊小学校が札幌市の学校としては初めて参加しました。授業では、東広島市のフリーペーパー『プレスネット』の発行部数や発行期間、配達方法や値段などについて、『プレスネット』を発行する会社の職員とオンラインで繋がり聞き取ったり、東広島市の小学校の児童や広島大学の大学生・大学院生とともにインターネット上の広告を探す活動をしたりするなど、オンライン環境を存分に活かした学習活動を展開しました。

本プロジェクトに参画し、初めて遠隔交流学习を経験した小野教諭は、2つの遠隔交流学习をふり返り、「日々の忙しい業務の中、限られた時間でオンラインを活用し、遠隔交流学习の開発と実践ができました」、「大学と連携・連帯すること、他地域の児童と交流することで、『社会科』の学習としてできることの幅がさらに広がり、自分自身が社会科教師として育てたいデジタル時代の市民性が少しでも涵養される学習に近づけた気がします」とふり返っていました。遠隔交流学习は、他機関と繋がるがゆえに「一人ではなかなか踏み出しにくい」「準備が大変」といったネガティブな側面もありつつ、子どもたちや自分自身の成長に繋がる「魅力」「やりがい」といったポジティブな側面も十分あることがわかります。

なお、上記の遠隔交流学习の開発に当たっては、釧路校・社会科教育学研究室・学部2年生の瀧田勇仁さんが教材研究のプロセス（玉井先生と小野先生の授業づくり）をオンライン上で視聴し、遠隔交流学习が出来上がる仕組みや実践に向けたノウハウを学びました。

こうした遠隔教育に関わる現職教員や教員志望学生の力量形成を引き続き支援していきます。社会科の遠隔交流学习の開発や実践、「大学の先生からの挑戦状」シリーズにご関心がございましたら、ぜひ社会科教育学研究室の玉井慎也先生までご連絡ください。